パワーボックス

X1/X2/X3 取扱説明書

販売代理店
（直接購入された販売店をご記入ください）

購入年月日　　年　　月　　日

重要:ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい。

この度はステイフィクスパワーボックス　X1/X2/X3　を
お買い上げいただきありがとうございます。
この製品は蓄積されたノウハウにより世界最高水準の最新
技術をご提供いたします。

1. 梱包内容をご確認ください

- パワーボックス本体
- アース用コード(緑)
- 通電コード(赤)
- ACアダプター
- 12Vバッテリー接続コード(赤・黒)
- 保証書

2. 各部の名称

おもて面

5段階LEDディスプレイ
電圧表示やバッテリー残量の
チェックが行えます。

電源スイッチ
(パルススピードスイッチ)
電源の入切を行います。

アース接続端子(緑)
アース用コードを使って、
アースに接続します。

フェンス出力端子(赤)
通電コード(赤)を使って、
フェンスに接続します。

うら面

壁掛けフック
本器を壁にかける時に使用します。

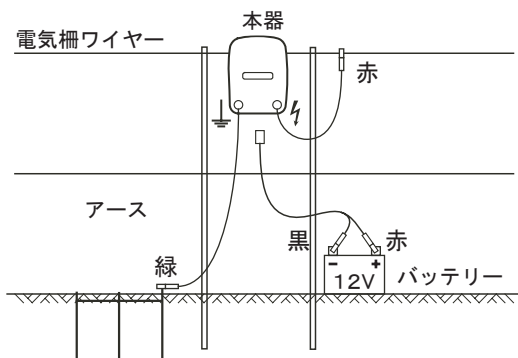
フェンスフック
本器をフェンスに吊り下げる
時に使用します。

電源入力端子
12Vバッテリー接続コードや
アダプターの端子を接続します。

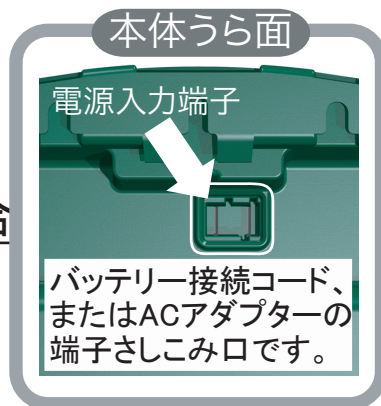
壁掛けフック
本器を壁にかける時に使用します。

3. 設置方法

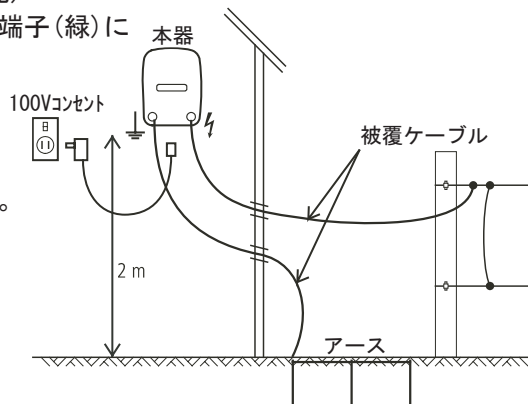
㈰12Vバッテリーを使用する場合

1．１２Vバッテリーを平らな場所に設置します。（容量50AH以上推奨）
2．バッテリー接続コードの赤クリップを＋端子、黒クリップを−端子に接続しクリップと反対側の白い端子を本器裏面の電源入力端子に差し込みます。
2．アース棒を確実に地中に埋設します。（推奨品：基本アースセット・別売）
3．アース用コード（緑）をアース接続端子（緑）に取付けアース棒に接続します。
4．通電コード（赤）をフェンス出力端子（赤）に取付けフェンスに接続します。

※本器は支柱の間隔を狭めて電気柵ワイヤーに吊るすか、ワイヤーがたるむ場合には近くに支柱を立て設置して下さい。

本体うら面

バッテリー接続コード、またはACアダプターの端子さしこみ口です。

㈪ACアダプターを使用する場合

1．本器を設置する壁にビスなどでフックを作り本器を掛けます。
2．ACアダプターを屋内の100Vのコンセントにさして、白い端子を本器裏面の電源入力端子に差し込みます。（※注意１）
2．アース棒を確実に地中に埋設します。（推奨品：基本アースセット・別売）
3．被覆ケーブル（別売）をアース接続端子（緑）に取付けアース棒に接続します。
4．フェンス出力端子（赤）にアンダーグラウンドケーブル（別売）などの被覆されたケーブルを接続し、屋外の電気柵ワイヤーへ接続します。

※注意１　ACアダプターを使った本器で人が容易に立ち入る場所に電気柵を設置する場合は、漏電遮断器が必要になります。詳細はお問合せください。

4. 操作方法

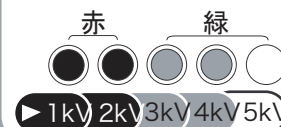
㈰電源スイッチ（パルススピードスイッチ）を入れる

電源スイッチを入れると、パワーボックスが作動します。
バッテリーの残量表示や電気を流す間隔（パルス間隔）を選択出来ます。

表示マーク	作動内容
○	電源オフ
?	バッテリー残量表示　※詳細は下記にて紹介します
	常に遅いパルス（間隔）で作動　　２．５秒毎
	日中は早いパルス（間隔）で作動　１．５秒毎 夜間は遅いパルス（間隔）で作動　２．５秒毎
	日中は遅いパルス（間隔）で作動　２．５秒毎 夜間は早いパルス（間隔）で作動　１．５秒毎
	常に早いパルス（間隔）で作動　　１．５秒毎

㈪5段階LEDディスプレイについて

出力電圧の確認

電源を入れ、パワーボックスが作動し始めると、LEDディスプレイが点灯します。
LEDディスプレイの1つの目盛りは約1kV（1000V）を表示します。
例えば、左から数えて4目盛りまで点灯すれば、約4kV（4000V）の出力電圧があることになります。約20秒後に電圧表示をやめ、作動ライトのみ点滅します。

※5目盛が点灯している場合、5kV(5000V）以上の出力電圧があります。

※電源スイッチを ? （バッテリー残量表示）に合わせた場合の表示は下記バッテリー残量の確認を参照してください。

バッテリー残量の確認

電源スイッチを ? （バッテリー残量表示）に合わせると、バッテリーの残量が表示されます。
バッテリーの充電時期の目安にして下さい。
※ACアダプター使用時は要充電の表示になる場合がございます。

LED表示	バッテリー残量	対応
●●◉◉◉	90-100%の残量	問題なし
●●◉◉○	70-90%の残量	問題なし
●●◉○○	40-70%の残量	充電近し
●●○○○	20-40%の残量	要充電
●○○○○	0-20%の残量	要充電

6. 保守管理と取扱のコツ

たとえ故障でなくても、定期的な点検管理を行う必要があり、これが電気牧柵器利用による省力管理の第一歩です。

☆バッテリー定期交換

バッテリー式電気牧柵器の場合、バッテリーの電圧が生命です。
一般に、乗用車に使われている55Ah〜80Ahを使用している場合、1〜2週間に一度は、充電されているものと交換する必要があります。
バッテリー残量の確認を行い、カレンダーに印をつけ定期的に交換してください。
バッテリーは、一般的に放電・充電を繰り返すと能力が下がっていきますが、過放電は最も注意する必要があります。
バッテリー液のレベル。比重は定期的に調整して下さい。

☆電柵の電圧チェック

電圧が降下するとショックが低下します。従って脱柵を未然に防ぐために、電柵の電圧を常にチェックする必要があります。1〜2日に一度柵の巡回点検をしてください。（地表面の導通具合により点検場所で異なります。）

牛、豚、犬、猫の例（野生動物の場合、下記の数値プラス500vを目安にしてください）

機種	安全範囲	使用限界	要点検
デジタルボルトメーター	3000v	2500v	2500v未満

製品データ

	1	2	3
入力	12V	12V	12V
消費電流	95/60mA	180/110mA	290/175mA
最大電圧	9．8kV	11．0kV	11．4kV
サイズ	W170×H240×D78mm	W170×H240×D78mm	W170×H240×D78mm
重量	1．3kg	1．3kg	1．3kg

7. 故障かなと思ったら

原因（点検順序↓） ＼ 状態		器械が動かない	ランプ点滅が遅い	ショックが弱い	途中からショックが弱い先の	対策（備考）
電源部	電源コードの差し込み不良	●				
	バッテリーの＋と−接続を逆にしている	●				＋−を逆接続すると、作動しないか、器械に負担がかかり故障の原因となります。
	バッテリーターミナルへの接続が不良	●				一度、接続を外しバッテリーターミナル部分を磨いて下さい。
	バッテリーの電圧が低下している		●			バッテリーは、その容量に応じて、定期的な充電計画をたて、実行して下さい。ソーラーの場合、壊れているかパネルの表面の汚れを点検してください。
アース部	アースが不完全			●		アースをチェックして下さい。乾燥したところ又は雪の上ではショックが十分に出ない事があります。
漏電関係	碍子が不良			●		明らかに破損している場合と、絶縁性能が低下している場合と電柵線が脱線している場合があります。前2つは碍子そのものを取替え、後者はバインド線で固定してください。
	電柵線が草木が触れている			●		刈り取って下さい。 ラジオノイズの最大の原因です。
	電柵線が地面又はアースに触れている			●		
断線	ライブ線が断線				●	ポリワイヤー等のステンレス線が途中で断線していると、その先は電圧がかかりません。不良箇所を新しい線と交換して下さい。
回路	回路内自体の故障	●		●		代理店、又は弊社へ相談して下さい。
	日照り続き			●		地表の電導性が悪くなり、ショックが低下します。

電気牧柵器自体が故障することは、極めてまれです。ですから、もし故障かなと思ったときは、上記の点検順序に従って、簡単な身近なところから点検してください。思わぬところに、よく原因があります。 牧柵器自体の点検は、本体のみの無負荷状態で、試験します。専用テスターを用いて出力をはかり、機種に記載されている範囲の出力（ボルト）が出ていれば正常です。

5. 安全上のご注意

ご使用の前に、この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使いください。
※ここに示した注意事項は表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる被害や公害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告 ⚠ この表示は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

- 禁止　絶対に電子回路の修理・改造はしないで下さい
- 禁止　使用対象は動物のみで、人間に対しては使用してはいけません
-

フェンスには必ず「危険」の表示を行ってください
- 禁止　幼児の手が届く範囲に電気柵関係機材を設置しないで下さい
- 禁止　川や池など水の溜まっている所で、本器の電気を絶対通電しないで下さい
- 禁止　引火物は本器はもちろん、電源スイッチ、フェンスすべてに近づけないで下さい
- 禁止　落雷時にはフェンスや本器に近づかないで下さい
- 禁止　体の自由が取れないような、狭い場所では使用しないで下さい
- 禁止　濡れた手で、電源関係の作業は行わないで下さい
- 禁止　電柵ワイヤーはとげがないものをご使用ください
- 禁止　電気柵は2次的な事故が発生する恐れのある所には設置しないで下さい
- 禁止　フェンス周囲には、鋭利なものがない様にして下さい
- 禁止　足や物が引っかかるような位置にワイヤーを設置したり放置したりしないで下さい
- 禁止　ローソク、蚊取り線香、タバコなどの火気を近づけないで下さい
- 禁止　本器の中には一切余計なものを入れないで下さい

注意 ⚠ この表示は「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- 禁止　電気柵工事で切り捨てたワイヤーなどは放置しないで下さい
- 禁止　通電しないときは、フェンスは必ず撤去してください

☆ラジオノイズ対策

電気牧柵器を長く使用していると、ラジオ・テレビに雑音が出ることがあります。これは電柵線のどこかに、下記の問題点が生じている証拠ですので、原因を明らかにして早急に対処して下さい。

1. 牧草や枝が伸びて、電柵線と接触している場合
2. 端子及び連結箇所の接続が不完全な場合
3. 電柵線が脱線しているか、断線している場合
4. アンテナと電柵線が平行になっている場合
5. 電気牧柵器本体が故障している場合（原因では1％以下）

お問い合わせは

ファームエイジ株式会社

北海道石狩郡当別町字金沢166 Tel.(0133)22-3060

フリーダイヤル　エイジで　良い柵を
0120-82-4390
※携帯・PHSからもご利用になれます